

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 064

学校名・団体名	岡崎市生徒指導不登校対策部会
HPアドレス	なし
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	不登校児童生徒の自立を目指した体験活動の取組
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>1) 研究の意義目的 「校外の適応指導教室『ハートピア』の活動促進及び機能拡充」 ①体験活動を年間計画に位置付ける。 ②臨床心理士との連携を位置づける。</p> <p>(2) 事業実施体制 ① <u>不登校児童生徒が普段体験できない活動を位置づけ、心のエネルギーを蓄えることができる機会を創出する。</u> ② 体験学習や校外の学習、集団学習においてタブレット型パソコンを使用し、意見交換や話し合いをしたりしてコミュニケーション能力を高めるツールとして使用する。 ③ 生活のリズムを整えるために自己管理を進める際にタブレット型パソコンを使用したり、家族とのコミュニケーションを深めるツールとして使用したりする。</p>	

<活動・研究報告>

1 活動計画

活動内容	ハートピア上地の行事	ハートピア竜美の行事	費用対応
秋の体験活動	社会見学 □二十七曲り散策 □伝統工芸 三浦太鼓店 11.30 トークコンサート…B	竜美デイキャンプ □少年自然の家 昼食作り (ホットドッグなど) 11.7 クラフト・アスレチック…A	①クラフト (ビーズ代) ②トークコンサート代
秋の芸術活動	農業体験 □小久井農場 ジャガイモ掘り □岡崎市美術博物館 展示見学	造形教室 □岡崎市子ども美術博物館 E B造形制作 □小久井農場 ジャガイモ掘り	実費のみ
芸術に ふれる活動	本物にふれよう「フルートコンサート」 □東京藝術大学卒業生フルートの演奏「岡崎市竜海中学校卒 山本 葵様」 …活動C		③音楽会講師謝金 ④コンサートホール代 ⑤花束代 ⑥交通費 (生徒送迎代) ⑦お礼の手紙 (写真代・紙代)
環境学習	環境学習 □東山動植物園 環境学習プログラム	環境学習 □東山動植物園 環境学習プログラム	実費のみ
人権学習	□人権啓発講演会 「できないことを魅力に変える」 □道化師ワークショップ クラウンワークショップ「お道化するから」 …活動D		⑧講師謝金 (交通費含) ⑨花束代 ⑩交通費 (生徒送迎代) ⑪風船・ゲーム代

《事業の目的》通所生が、本物の音楽やプロの技に直接触れることで、こもりがちな感性を伸長させる機会とする。また、講師や演奏者が身近な学校地域の出身者であることから、身近な感覚を醸成し、コミュニケーションを高めることができる機会とする。

《講師について》自ら不登校経験を持つ講師による、自己開示、自己の才能を伸ばす、自己肯定感を高めることの大切さを語る講演会と道化のパフォーマンスの体験により、コンプレックスの解消や日常を前向きに生きる处世術について学ぶ機会とする。

上記外の費用使途：⑫活動記録をまとめた媒体代

⑬活動文集・実践記録集紙代

2 活動状況

活動A：デイキャンプ…仲間と協力して、昼食づくりやクラフト作りに積極的に取り組んだ。

活動B：トークコンサート…盲学校に通う高校生を講師に招き、ハンディキャップに負けず美しい歌声を追究する講師の講演と歌声を披露していただくコンサートを実施した。

活動C：フルートコンサート…フルートの音色に感動し、講師とともにハンドベルの合奏に取り組んだ。

(以下資料：活動の様子をまとめた『岡崎の教育』の原稿)

フルートコンサート 去る1月25日に、総合学習センターの小ホールでフルートコンサートを開催しました。演奏者は竜海中学校の卒業生でもある東京藝術大学教育研究助手の山本葵さんです。山本さんの奏でる穏やかで清らかな音色は、聴き入る私たちの心を癒してくれました。小学校の時の先生との出会いがフルートを始めたきっかけであるとのこと。幾重もの苦しさを乗り越え、今に至ったことなどユーモラスなトークを交え、素敵な曲を演奏してくださいました。中でも、通所生一人一人にハンドベルなどを用意してくださり、一緒に奏でた「アメージンググレイス」は、とてもいい思い出になりました。

「苦しくなったとき、この曲に励まされました」とはじまった最後の曲「上を向いて歩こう」は、私たちに勇気と希望を与えてもらえ、力が湧いてきたように感じました。「とても綺麗な演奏に感動しました。注意されたことを落ち込まずに、次に生かすというお話が素敵だなと思いました。私も一歩ずつ前に進んでいきたいです。」と記した今年度大きな成長を見せている通所生の感想からも、このコンサートが今後の励みになったことを伺えます。



活動D：クラウン講演・ワークショップ…「出来ないことを魅力に変える」というテーマでクラウンのレッスンを実際に体験した。最初は恥ずかしがっていた生徒もだんだん楽しく心と体が開放されていった。(上資料：写真)

3 成果と課題

ハートピアでは、中学生を中心に、学校復帰を目指した様々な取組がされており、現在、週に1日程度の登校ができる通所生の割合は、ハートピア竜美・上地合わせて約80%となっている。通所生の心のエネルギーを蓄える体験活動等の実施を通して、児童生徒が学校復帰に向けて動き出すことができた。